

大学教育研究重点配分経費研究成果報告書

【テーマ】

個性溢れる動きを引き出す表現遊びの指導

【代表者】

保健体育講座 成瀬麻美

<研究成果報告書>

本研究は、小学校低学年の表現遊びに着目し、題材を与え表現した場合に児童が同じ動きを行うという問題から、児童の動きを質的に分類し多様な動きを引き出すための指導法を検討することを目的とした。その成果は下記の通りである。

【課題Ⅰ】表現遊びの即興時に現れる「模倣」の種類

小学校低学年の表現遊びに着目し、実験から得られた模倣の動きを分類し、質的に動きをみる観点を明らかにした。方法は4校の小学校2年生134名で、動物や乗り物の絵カードを提示して児童が即興的にそのものになりきった動きを形態という視点で質的に分類した。

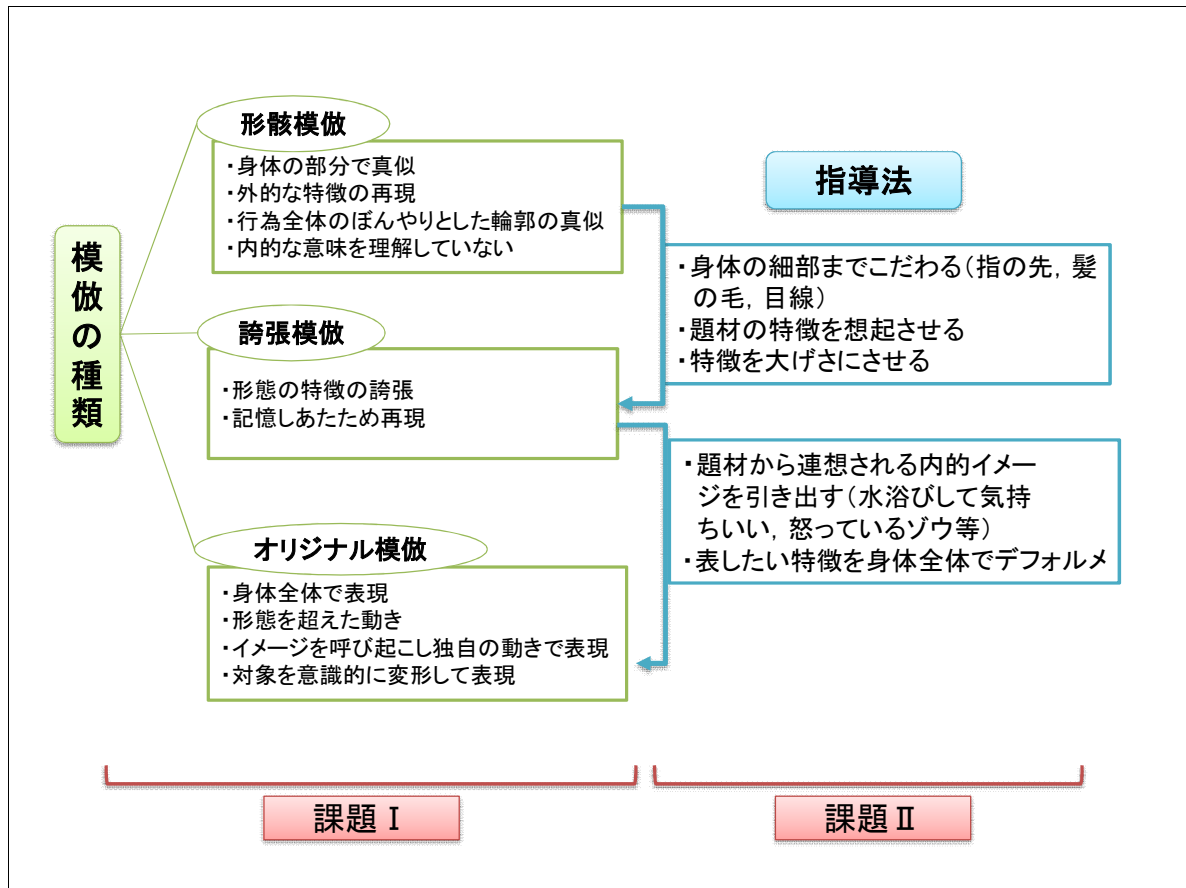
その結果、「題材の模倣」と「他者の模倣」の大きく2種類の模倣が現れ、題材の模倣では題材の形態のみを模倣している「形骸模倣」、特徴を捉えて大げさに表現している「誇張模倣」、独自のイメージで表現している「オリジナル模倣」の3種類、他者の模倣では互いの動きを真似し合っている「相互模倣」、他の児童の動きを自身の動きに取り入れた「反映模倣」の2種類の模倣があることが明らかとなった。

以上のように表現遊びで現れる模倣の種類について分類を提示できた。外的な形態をただ真似ることではなく、外的なものから内的なイメージを通して、主体的にその意味を理解しながら模倣していくことによって創造に繋がる模倣に近づけるのではないかと考えられた。

この研究は、2013年6月に開催された International Conference on Physical Education and Sport Science(フランス・パリ)、8月に開催された日本体育学会(立命館大学)において研究成果を発表した。また、全国誌であるスポーツ教育学研究第65号に原著論文として掲載が決定しており、広く教育関係者、現場の教員に示している。

【課題Ⅱ】「形骸模倣」から「オリジナル模倣」に移行するための指導法

課題Ⅰから明らかになった結果を受けて、「形骸模倣」から「オリジナル模倣」へ移行するための指導法を検討した。方法は、3つの模倣の特徴を整理し違いを明確にした上で、オリジナル模倣に移行するための観点を導き出し、実践した。指導なしの活動から指導を加えることにより、3つの模倣の動きがどのように変化したのかを明らかにし、指導内容と模倣の動きが変化したタイミングを合わせて考察した。課題Ⅱに関しては現在分析中であり、今後成果をまとめていく所存である。



<図 1 本研究全体のまとめ>

まとめ

本研究全体のまとめは図 1 の通りである。

本研究では、2 つの課題から小学校低学年の表現遊びにおける指導法を明らかにすることを目的とした。小学校低学年の動物や乗り物になりきることから「模倣」に着目し、模倣の動きを 3 つの観点で分類することができた。現在まで表現の動きを質的に分類した先行研究はほとんどなく、動きをみる際の手がかりとして提示することができた。

また、3 つの模倣の種類を明らかにした上で、個性のある「オリジナル模倣」に移行するための指導法を 3 つの模倣の違いを検討し、その指導法を実践した。現在は実践した段階で分析中であるため、今後とも研究を継続していく所存である。